

加納高校の演劇部が、平成28年12月23日（金）～26日（月）に三重県で行われました第69回中部日本高等学校演劇大会で、文部科学大臣賞（第一位）を受賞しました。

またそれにより、来年度の夏に宮城県で行われる全国高等学校総合文化祭・第63回全国高等学校演劇大会に出場します。

上演演目は「<sup>か</sup>彼の子、<sup>あした</sup>朝を知る。」（作：白梅かのこ）

この作品は、現代の高校生がお盆を通して、自分の「先祖との血のつながり」を再確認していくとともに、花火の音をきっかけに、テロや戦争の恐怖を感じていくというストーリーです。

戦火を生きた先祖の記憶を追体験していく中で、今まで遠い存在に感じていた「戦争のあった過去」と「現代」とが繋がっていき、そうしてまた「今」が「未来」へと続いていくという壮大な構図の台本と、それを演じきる高い演技力、緻密なスタッフワークが評価され、今回の受賞につながりました。

演劇部は今年度、この作品によって岐阜地区大会、そして県大会においても優秀賞を受賞し、13年ぶりに中部大会に出場しました。そして今回、創部以来初となる、全国大会に出場することになりました。この作品を創作するにあたって多くの方にご協力いただきました。ご来場頂きました観客の皆さまをはじめ、保護者の方々、先生方、戦争体験を語ってくださった方々、全ての方々に心から感謝して、これからも、何事にも励んでいきたいと思えます。ありがとうございました！



# 加納高が最高賞受賞

中部日本  
演劇大会 全国総文祭に出場へ



津市の三重県総合文  
化センターで二十三  
日から開かれていた中  
部日本高校演劇大会  
(中日新聞社など主催)  
が二十六日閉幕し、  
岐阜市の加納高校が  
最高賞の文部科学大  
臣賞を受けた。来  
年八月、仙台市で  
開かれる全国高校  
総合文化祭の演劇  
部門へ出場する。

文部科学大臣賞を受  
けた加納高の生徒た  
ち  
|| 津市の三重県総合  
文化センターで

同校の「彼の子、朝を知る。」は、戦争を知らない高校生が当時を追体験し、その延長線上にある現代について考える物語。主役を演じた二年の堀万里子さん(左)は「いろいろな人に感謝の気持ちをお伝えたいです」と涙ながらに喜びを語った。

大会は六十九回目  
で岐阜、愛知、三重、福井、石川、富山各県から十七校が出場。二位の中  
部日本高校演劇連盟賞は名古屋南(名古屋市南区)、三位の中日賞は富山第一(富山市)だった。

(河郷文史)

2016年12月27日付 中日新聞より

「この記事・写真等は、中日新聞社の許諾を得て転載しています。

許諾番号 20170110-18856